

II 実践事例

1期 5歳児

実践①「ななはけラボってどんなところ？」（5月 第2週）

子どもたちに小学校の先生から「ななはけラボに遊びに来てください」という手紙と地図が届き、小学校を訪れた。「ななはけラボ」では1年生の担任が待っており、5歳児も小学校に遊びに来ていいこと、遊んだり交流したりする場として楽しく使ってほしいということを知る。好きなおもちゃで遊んだり、壁面のホワイトボードに描いたりすることを楽しんだ。



小学校の先生からの話



くつつくおもちゃを見つけた！



細長い板。どうやって遊ぶ？



図鑑や磁石。じっくり遊ぶ。

<○成果 △課題>

○園舎以外にも自分たちが活動できる場所があることを知り、興味をもって活動していた。

△幼児にとって「ななはけラボ」の位置は遠く、気軽に遊びに来られる場所ではない。今後も「ななはけラボで活動する」必要感をもたせる仕掛けがいるか。

実践②「はじめましての会」5歳児・5年生交流（5月 第4週）

3年前の本研究開始時から、「幼児と小学生の双方に利のある交流活動の実現」を目指して、幼稚園と小学校の教職員で交流活動の在り方を検討してきた。特に、5歳児と5年生の交流については、次年度の1年生と6年生にあたる学年であるため、年間を通して関わりを深められるように交流活動を計画している。今回はその1回目である。密を避けるためにランチルームと「ななはけラボ」の2つの場に別かれ、工作やぬり絵遊びを楽しむグループとおもちゃを使って遊ぶグループがあった。



お互いどきどきの はじめまして



どこまで高く積めるかな。



工作遊び。何ができるかな。



ブロックを使って遊ぼう。



こんな積み方があるんだ！
小学生ってすごい！



ビー玉転がし、面白い！

<○成果 △課題>

○5歳児は緊張しながらも、「ななはけラボ」にあるおもちゃなどの遊びを楽しんでいた。自分たちの経験や今の技能では作ることが難しいものを組み立ててもらったり、優しく援助してもらったりすることで楽しんだり刺激を受けたりした様子であった。幼稚園に戻ってから、5年生の姿に憧れて、同じように遊具を構成してみようとする姿が見られた。しかし、思うようにいかず試行錯誤する様子があった。

○5年生は幼児が何をしたいか想像しながら遊びの内容を考えた。当日は、普段よりも柔らかい表情で幼児に接していた。手本を見せたり、幼児の意見を聞いて他の遊びを取り入れたり、柔軟に接することができた。

△5歳児14名5年生28名と人数差が大きく5歳児は心細かったり圧倒されたりする場面もあったように思う。

△小学校の1単位時間（45分）に合わせて活動したが、遊びの場ができあがり始めたところで時間切れになってしまった。今後も交流活動を行う際には、内容によって事前に場の設定をしておくことや、その時間内でどのような活動をさせたいかを5歳児と5年生の担任で綿密に打ち合わせをする必要がある。

1期 1年生

実践① 生活「わくわくどきどき しょうがっこう」ほか（4月 第1週～5月頃）

小学校という新しい環境に関心をもち、自分たちで計画した学校探検を契機に「ななはけラボ」という環境に出会い、保育室に似た環境の中で遊ぶことを通して友達や先生との関わりを深めた。また、その遊びの中から教科の学びにつながるたくさんの気付きがあり、国語や算数、音楽や生活などの様々な学習活動へと発展した。



みんなで学校探検へ出発！



ラボで好きな遊び。何を作ろうかな



楽器に触れる♪どんな音かな



遊んでいたらタワーが出来た！
どちらが高いかな。



数え遊びから算数へ。いくつか

<○成果 △課題>

○児童の興味関心から、さまざまな学びへの広がりがあった。

△児童が遊びこむ時間やじっくりと環境に関わり、自分のやりたいことに集中する時間を確保するのが難しい。

小学校の1単位時間と、児童の活動の区切りのバランスを考える必要がある。

実践②生活「きれいにさいてね わたしのはな」（5月 第1週）

「去年の1年生がとっておいてくれた、なぞのたねをもらいました」という教師の投げ掛けから、「何の種なのか」「どうしたいか」「そのためにどうすればよいか」等の疑問が生まれた。きょうだい児がいる子や家庭でアサガオの栽培経験のある子が「アサガオの種だよ」と発言し、別の子が「ななはけラボ」にアサガオの本が沢山あったことに気が付く。「みんなで育て方を調べてみよう」ということになり、ラボで「どうぐ」「おせわ」「そだちかた」の3つを調べた。また、2年生が野菜の栽培の準備をしているところを見学し、質問したり説明を聞いたりして、「同じように準備をしてアサガオを育てたい」という思いをもった。自分たちで「はなをさかせる」「たねをげつとする」の2点を“アサガオミッション”に設定し、調べたことや2年生から教わったことを基に栽培を始めた。



「ななはけラボ」でのアサガオ調べ



調べたことをみんなで共有



2年生とお揃いの鉢で種植え

<○成果 △課題>

○学校探検や交流活動などで親しみをもっている2年生からもらった種なので、関心や意欲をもって活動に臨んでいる。（3期までの帯単元）

1期 2年生

実践① 生活「1年生を むかえよう」(1年生5期～2年生4・5月)

1年生5期に、「1年生を迎え入れるために何が出来るか」と考え、おすすめの図書を選んで「ななはけラボ」に並べたり、1年間の学校行事や楽しかった活動などを絵に描き、1年生の教室に飾ったりした。2年生1期では、学校探検の計画を立てたり、入学祝いのメダルを作ってプレゼントしたりした。交流遊びや学校探検、遠足など、およそひと月で4～5回程度の交流を行い、徐々に親和的な関わりが生まれてきた。



学校探検で1年生を案内



遠足の遊びの相談



遠足当日の様子

<○成果 △課題>

○はじめは上級生としての自覚や意識が薄かった2年生も、交流回数が増えるにつれて1年生の希望や思いを聞き取り、寄り添いながら活動する姿が見られた。担任は絵日記などによる振り返りに丁寧なコメントで価値付けた。

△学級閉鎖や遠足に合わせた日程を組んでいるため、学校探検の時期が1年生にとっては少し遅かった。

実践② 生活「めざせ 野さいづくり名人」(5月第1週～)

1年生での栽培経験(春夏アサガオ、秋冬球根:チューリップ、ヒヤシンス、スイセン、クロッカスから1種)を振り返り、「今度は野菜を育てたい」という思いをもった子どもたちが、春植えの野菜とその育て方について「ななはけラボ」で調べ、自分が育てたいと思う野菜を選び(ミニトマト、キュウリ、ピーマン、ナス、エダマメ、オクラ)、栽培活動を開始した。その際、2年生の学びの様子に興味津々の1年生が、窓から覗き込んだり畑の周りを見学しに来たりしたが、昨年度の経験を知らせたり、今行っている活動について説明したりする姿が見られた。



「ななはけラボ」で野菜について調べる



窓越しに1年生に栽培の説明



それぞれの鉢に大切に苗を植える

<○成果 △課題>

○前年度の栽培経験を生かして、自分たちで調べたり選択したりすることで、意欲的に活動している。(3期までの帯単元)